

上田 勉

能登半島地震で亡くなられた犠牲者の方々に、心から哀悼の意を表させていただきます。

**能登半島地震 政府と石川県は3・11から何を学んだのか！何も学んでいない！**

**◆なぜ、自衛隊は今生きてる人を救助できないのか！**

地震や津波にあつて、その時に死なないで生きている人を救助することが一番大事です。警察や消防は被災地の地元にあるので、直ぐに人命救助の活動ができます。しかし、自衛隊は、都道府県知事が出動要請して、防衛大臣が指揮をした段階で救助活動に入ります。自衛隊の部隊が救助活動の準備をして、被災地の現地に入って、本格的に救助活動に入るのには2~3日かかります。人命救助の72時間は過ぎてしまいます。よつて、毎回の自衛隊の救助活動は、生きている人の救助ではなく、亡くなった人の遺体の搜索活動になってしまいます。

自衛隊にも、災害救助専門の部隊を作つて、災害があれば直ぐに被災地に行つて、救助活動をするこつがなぜできないのでしょうか。テレビでも、家族が倒壊した家の中にいるのに、なぜ助けに来てくれないのか、という画面がいくつも流されました。

**◆なぜ、政府は米国や台湾の災害救助隊の入国を要請しないのか！**

米国や台湾には、災害救助専門の部隊があります。他国からの要請があれば、世界中どこの国へも派遣します。新聞報道によると、能登半島地震でも、米国や台湾の災害救助隊は出動の準備をしていたそうですが、日本政府は出動要請をしませんでした。もしも出動要請をしていたら、助かつた命もあつたと思います。もしも、自分が万が一建物の下敷きになつて、生きているのに助けてもらえなかつたら、と思うと残念でなりません。

**◆なぜ、電気も水道もない場所を避難所にするのか！**

避難所は、仮設住宅やみなし仮設住宅(借家等)ができるまでの、生活する場所です。それまでには3~6カ月かかります。電気や水道のない避難所での生活なんて考えられません。特に、避難所では、特に水道が出ないので、トイレが使えない、ということが大問題になりました。水道や下水道が復旧するには、半年~1年はかかりそうです。2次避難と言われているが、被災地から50~100km離れていても良いので、水道と電気のある避難所へ避難すべきです。

**◆なぜ、政府も都道府県も、全国の公営住宅や災害公営住宅の空き家を把握しないのか！**

災害が起きたら、地元の避難所⇒仮設住宅⇒災害公営住宅という一律の順序は再検討すべきです。公営住宅や災害公営住宅・民間アパートの空き家、ホテルや旅館・民宿などをもつと活用すべきです。そのためには、政府や県が、空き家を把握して、直ぐに被災者に提供できるようにしておくことが大事です。

【被災者の命と健康を守るために(上田(案))】

◇自衛隊に災害救助隊を新設する。災害があれば、知事の要請前に被災地に行つて救助活動を行う。(海外でも)！

◇米国や台湾の救助隊の入国を直ぐに要請する。1人でも2人でも、生きている被災者の

命を守る！

◇避難所は、電気・水道・ガスのある場所にする。避難所は生活をする場所なのだ！

◇政府や都道府県は、公営住宅や民間アパートの空き家を把握しておく。そして、災害が起きたら直ぐに入居して生活ができるようにする！



雪が降りしきる中、捜索活動を終えた消防隊員。重機で取り除いたがれきの下から、1人が心肺停止で見つかった。この場所での捜索を終えると、すぐに次の場所へ向かい捜索を続けた=2024年1月7日午後2時18分、石川県珠洲市、田辺拓也撮影（「朝日新聞デジタル」2024年1月7日）



避難所で行われた炊き出しで、豚汁などを受け取る人たち=2024年1月7日午前11時24分、石川県輪島市の大屋小学校、小宮路勝撮影（「朝日新聞デジタル」2024年1月7日）